



片柳中学校だより

# 片 柳

さいたま市立片柳中学校  
第3号 平成29年6月1日発行  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL 048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 使えてこそ力、使ってこそ確かな力になる

校 長 島 村 暁

進路学習会のご案内を差し上げたところ、3年生の保護者の方に加え、多くの1・2年生の保護者の方からも参加申込をいただきました。このことから、お子さんの進路について保護者の方の関心の高さを感じることができました。そのことにも関連するかもしれませんが、今回は2年生の「過密地域」という社会科の授業からお話をさせていただこうと思います。

先日、望月先生の授業で「東京には、約140の大学がある」という話題を扱っていました。日本国内には、約800の大学があり、東京が約20%を占めているそうです。その授業を観ながら、頭の中で路線図の中央線を思い浮かべ、お茶の水駅なら明治・順天・日大、水道橋駅なら専修…と確かに多くの大学があります。2年生が校外学習で訪れる上野駅周辺にも歴史を感じさせる建物の東京大学や東京藝術大学があります。でも、自分が知っている大学を数えても100もあるだろうかと思い、実際に調べてみました。資料を基に東京にある全ての大学名を見たのですが、初めて見る大学名が40校ほどありました。一説には、学生の増加（昭和60年から平成5年までの高校3年生は500万人台）に加え、大学の設置認可に係る規制緩和により平成元年には約500校であった大学がこの30年間に約300校増えたそうです。また、学生の増加から広大な敷地を求めて郊外への移転も多く、東京多摩地区などはその代表とも言われています。しかし、現在は学生確保が厳しく（平成14年から高校3年生は300万人台に減少）なり、利便性を優先して郊外に移転・拡大した大学が都心部に再び戻るといった傾向がみられるといわれています。そういえば、本校近くにある日大法学部大宮校舎も現在では、体育の授業以外に授業は行われていないようで、先ほどの数字や説も納得できるような気がします。

話がそれてしまいました。既にご存知のことと思いますが、2021年から「**大学入学希望者学力評価テスト（仮称）**が実施」と大学入試が大きく変わります。この転換期の大きな変化の対象となるのが現在の中学生です。かなり前のことですが、共通一次（現在のセンター試験の前身）が導入されました。この新しい入試に切り替わる前年の高校3年生は「今年、合格しなければ来年は不利になる」という声もあったそうです。4年後の変化は、**知識の記憶が重視されていたものから考える力や表現する力を重視したものに変わっていく**そうですが、どのようにシステムが変わろうとも、学習習慣や身に付けるべき基礎・基本は変わらないと思います。

そこで生徒のみなさん、中間テストの結果が手元に届くころだと思います。その結果をどのように見るのでしょうか。気持ちはわかりますが、**数字だけ見ていないでしょうか**。できるものは（いつでもできるか→できる自信がある→確かな力）、できそうなものは（どこでミスをしたのかがわかる→ほとんど理解できている→念のためもう一度やって力にしよう）、できなかったものは（方法はわかっているがうまく使えなかった→自分の力で答えにたどり着ければ力になる）わからなかったものは（問われていることも、何を答えるのかも思いつかなかった→1からやり直そう）といった視点で見直すことが確かな力にするために必要だと思います。時間がかかる点検ですが、大事なことだと思います。そして、保護者の皆様、今回の中間テストを含めた家庭学習、復習はしっかりできているでしょうか。「**使えてこそ力、使ってこそ確かな力になる**」という言葉もあります。お子さんの頑張った部分を認めていただき、そこをスタートに次の目標とするステップを示してくださるようお願いいたします。